The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新年のごあいさつ
Author(s)	高杉, 豊; 辻野, 守典; 藤井, 曉 他
Citation	makoto. 1998, 101, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85871
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新年のごあいさつ

大阪府環境保健部長
高杉　豊

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに平成10年の新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

また、日頃から環境保健行政特に昨年の「なみはや国体」「ふれ愛ぴっく大阪」の開催時には、食中毒の防止等の防疫対策に多大な御支援をいただき、おかげさまで大過なく成功裏に終了することができましたことを深く感謝申し上げます。

さて、昨年もO-157は全国規模で発生し、この病原微生物が常在化していることがうかがえますが、このように今までなかった感染症（新興感染症）の出現、さらに近い将来克服されると考えられていたものが再び猛威を振るい始めている結核などの感染症（再興感染症）が明らかにされている現在、新興・再興感染症にも対応できる「新しい時代の感染症対策」が求められております。

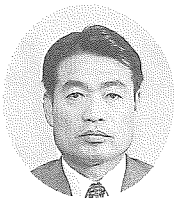
国においても今年の通常国会に伝染病予防法等を改正し、新興・再興感染症に対応するとともに、患者・感染者の人権にも十分に配慮する感染症予防法（仮称）案が提出される予定でございます。

大阪府では昨年4月に保健予防課に感染症対策室を設置するとともに、府保健所に医師等の専門職からなる感染症担当を配置し感染症対策の充実強化を図っているところでございますが、感染症に対する抵抗力を高めるために基本となる健康づくりを推進する観点から、昨年2月に府民自ら生活習慣の改善に取り組み積極的な健康づくりを実践していただけるよう、府民のみなさんの取り組みを支援し府民主体の行動計画を示す「成人病克服おおさか10か年プラン」を策定するなど、「健康都市・大阪」の実現を目指し一層の努力を続けているところでございます。

今後とも、これまで貴協会が50年にわたり培われてきた豊かな知識や高度な技術を遺憾なく発揮され、府民の健康づくりにより一層の御尽力と御協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして新年のごあいさつといたします。

年頭の御挨拶



財団法人 大阪防疫協会
理事長 辻野守典

明けましてお目出とうございます。

昨年中は何かとご指導ご鞭撻賜りまして、有り難うございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年5月15日、協会創立50周年を迎え、多数の御来賓各位の御出席を頂き、記念行事を無事終了することが出来、大変有り難うございました。ここに改めて御礼申し上げます。

当時を思い起こしてみますと、戦争中のような物不足(野草も食べる)ほどではなく、食料事情はやや改善され、アメリカより配給された小麦粉を使って、自家製簡易パン焼器が大流行していました。

ところで、当時の衛生状態は悪く、伝染病が大流行し、府の防疫対策に協力するのが協会の仕事でした。

あれから50余年、国民の知恵と不断の努力の結果、経済はめざましく発展し、問題も改善されてゆきました。

千里万博(1970)で、足の痛みを忘れて、アメリカ館の「月の石」を見た時の感動も、すでに約30年前のこととなりました。

昨今では、各国共同で宇宙ステーションを建設するほど、科学技術は長足の進歩をとげた。その社会でも根絶出来ないのが、伝染病と食中毒。微生物との、終わりのない戦いを続けています。

先日、BS-2を見ていますと、アメリカで感謝祭が近づいて来て、七面鳥のキャンピロバクタ汚染が問題になっているとかの話題でした。当局の指示は、「よく加熱処理をするように」とか、食中毒予防は原点に返れということかと考えたりしていました。

一昨年起こった、学校給食による集団食中毒（O-157）事故は大きな衝撃を社会に与えましたが、昨年は、基本に忠実に対策が進められた結果、大事故もなく終わりました。

人間が生存する限り、微生物との戦いは続くのでしょうが、マンネリと慢心こそが大敵であることを、忘れてはならないでしょう。

新年のごあいさつ

大阪市環境保健局長
藤井　曉

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様の御多幸と御繁栄を心からお祝い申し上げます。

旧年中は、本市の環境保健行政の推進に格段の御協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年8月、大阪市はおかげをもちまして2008年オリンピックの国内候補都市の栄誉を得ることができ、大阪オリンピックの招致・開催に向けて大きな一歩を踏み出しました。

また、昨年は、「なみはや国体」「ふれ愛ぴっく大阪」が開催され、「大阪ドーム」をはじめとする各種の大規模集客施設が相次いでオープンいたしますなど、大阪市は国内外から人々が集い、にぎわう「国際集客都市」として、大きく飛躍を遂げようとしております。

市民の皆様はもちろん、大阪を訪れた多くの人々に、衛生的で快適な生活を送っていただくためには、O-157やレジオネラといった新興・再興感染症に対する防疫対策や建築物メンテナンスを始めとした環境衛生の確保は都市基盤の一つとして、ますます重要性を増しているところでございます。

これら事業の推進にあたり、貴協会がこれまでに培われてきた環境整備における豊富な知識、経験と高度な技術は、私どもといたしましても誠に心強いものであり、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ

堺市環境保健局衛生部長
鍋島道雄

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市保健衛生行政をはじめ市政の推進にご協力いただき、心より厚くお礼申し上げます。

さて、一昨年の腸管出血性大腸菌O-157による集団下痢症の深い反省に立ち、私ども堺市では、平成9年度を「健康都市づくり元年」と位置づけ、市の最優先課題とし、市民の皆様が安全で快適な生活を過ごせるまちづくりを進めております。

また、併せて昨年4月には、第6番目の保健施設として東保健総合センターを開設するとともに、市内各界の団体により、市民総参加の心と身体の健康づくり運動を進める「堺市健康づくり推進市民会議」が設立され、「健康都市・堺」の実現をめざし、積極的にご活動いただいております。

本市では、少子高齢化、慢性疾患の増加など疾病構造の変化、健康に対する意識の変化とそれに伴うニーズの多様化に合わせ、市民の安全と健康に対する期待が高まる中、身近な保健衛生の向上のため、本年も引き続き、保健施設の整備や地域保健サービスの充実に向け、一層の努力を行ってまいります。

こうした事業を推進するにあたり、貴協会が培われてきた知識・経験、高度な技術は誠に心強いものであり、今後とも変わらぬお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会のご発展と会員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

東大阪市保健衛生部長
金　木　義　直

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしいお気持ちで新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

本市では地域医療の中核となる念願の「市立総合病院」が昨年11月に完成し、いよいよ本年5月に開院を迎えることになりました。この新病院は高度化する医療需要に対応することができるとともに、府立中河内救命救急センターも併設されており、市民から信頼される病院をめざしています。本市にとっては、「健康でたがいに支えるあたたかいまちづくり」の第一歩を踏み出すことになります。

また、昨年４月には、地域保健法が本格的施行となり、「いきいきとした人生を送るためには健康が第一」の認識のもと、生活者の視点を重視した施策が強く求められております。本市では、昨年策定の東大阪市新基本計画第３次実施計画を基に、保健所の基盤整備を図るとともに、個人にあったケアプラン作成など保健と福祉との連携による地域で支える健康づくり対策、食中毒予防や住環境衛生、医薬品適正使用の啓発など健康を育む生活環境づくり対策等のソフト面の方策をきめ細やかに展開していかねばと考えております。

さて一方、病原性大腸菌Ｏ-157については、市民に対する積極的な予防啓発が功を奏したものか、本市では未だ集団での発生例はありませんが、現在、国においては、新しい時代の感染症対策について、人権尊重・危機管理の視点にたって、明治30年に制定された伝染病予防法の改正を中心とした感染症対策の抜本的見直し作業がなされています。

このような中、本市保健衛生行政をさらに推進させていくため、昨年に創立50周年を迎えられ防疫業務に精通されている貴協会のなお一層のご支援を、今後とも賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

財団法人
阪大微生物病研究会
理事長　務　臺　方　彦

謹んで新春をお慶び申し上げます。

年頭に当たり、財団法人大阪防疫協会の皆様のご多幸とご発展をお祈り申し上げます。

旧年中は、弊会のワクチン事業にご協力を戴き、厚くお礼申し上げます。

昨年は我が国における、いわゆるバブル経済清算のため、行政・経済構造改革の第一歩を踏みだした年でありました。政治も経済もグロバリゼイションの波の中で、国々の協調なくしては、生存することが、不可能な時代になりました。地球という豊かな星に住む生物は、限りある資源と環境を守りながら、利用し、いかに生存を続けてゆくか、人類に課せられたテーマに取り組みはじめた年でもありました。

一方、保健の在り方について議論が進められ、特に老人医療費の抑制措置がとられ、医療関係の経営に影響を与えております。この様な環境の中で、疾病の予防の重要性が再評価されるべき時であります。感染症に対しても、新興・再興感染症対策の確立が要求されております。感染症対策の唯一の方法は、予防ワクチン開発と、既存ワクチン接種率の向上であります。

昨年は感染症予防法の改正によって、集団的予防接種から、個人防衛に転換しましたが、その結果は、接種率低下の傾向を生じました。抗体保有率の低下は、易感染者の増大を招き、爆発的な感染症の流行の危険があります。予防事業に従事する関係者は、ワクチン接種の啓蒙を積極的に行う必要があります。

当会としまして、そのための対策を本年は進めたいと思います。貴会の皆様のご協力をお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

株式会社
大阪府食品流通センター
代表取締役社長　中尾善一

新年おめでとうございます。

皆様方には、すがすがしい気持ちで新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は、当社の防疫・環境保全業務に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社が管理運営をいたしております加工食品卸売場は、大阪府中央卸売市場と同時に開場いたしまして、早いもので本年5月で20周年を迎えます。

加工食品卸売場は、中央卸売市場の附属店舗方式が中心であったものを、生鮮食料品を取り扱う市場部分と分離し、加工食品卸売場を併設することにより、中央卸売市場と一体となった『総合食品供給基地』として建設されたものでございまして、開設以来20年間、豊かな食文化の形成をめざす大阪府中央卸売市場の機能を補完して、その充実発展に大きく寄与できたものと思っております。

しかしながら、時代の流れとともに、社会経済の環境も変化し、食品の流通システムにも大きな変革を求められる情勢になってきていることも事実であります。

また、当社のもうひとつの事業であります大阪府中央卸売市場と加工食品卸売場の保安警備、施設管理、清掃及び衛生管理業務のうち、食品供給基地として最も重要である衛生管理業務を開場以来20年間にわたり、貴協会にお願いしてまいりました。

この間、衛生害虫防除、殺菌消毒、ねずみの駆除等の業務をはじめ、食品供給基地の食品衛生思想向上に大きく貢献されてまいりました。

今後、地球環境の変化や、ますます加速する国際化のなかで、もともと日本にいなかった病害虫や未知の感染症の出現などの可能性も十分予測しなければなりませんが、貴協会の豊富な経験と高い技術力とを十二分に発揮していただくことにより、あらゆる課題にも適切に対応していただけるものと確信いたしております。

終わりに、財団法人大阪防疫協会のご発展と皆様方のご多幸、さらに本年は、明るい展望のもてる年となりますことをお祈り申し上げ、新年のあいさつといたします。

新年のごあいさつ

南海電気鉄道株式会社
鉄道営業本部 営業部 営業課長
桝　元　政　明

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

さて、当社の鉄道を利用されるお客さまは平成３年をピークに年々減少の傾向にあります。これは、長引く不況の影響や就学人口の減少といった構造的な問題のほか、道路網の発達やＲＶ車人気など車による移動の便利さ、快適さに敗れているためであります。

以前、鉄道は「乗って安心(安全)」、「時間が正確」、「安い」ということがセールスポイントであり、お客さまの支持もいただいて参りました。しかし、これに加えて「心地よさ(快適)」、さらには「より便利に」というお客さまのご要望がある以上、それにこたえていくことにこそ鉄道の生きる道があります。

「より便利に」のためには、切符を買わずにプリペイドカードを直接自動改札機に投入していただくことによって乗り降りができるストアードフェアシステムを本年秋に導入し、また、他の鉄道も1枚のカードで乗り降りできる「スルッとＫＡＮＳＡＩ」に加入することにより、関西鉄道ネットワークを確立していく計画であります。

「心地よさ(快適)」のためには、駅や車両といったハード面の充実はもちろん、社員ひとりひとりの美化意識の高揚を図り、また、貴協会のご協力を得て、「美しい駅」、「美しい電車」と評されることをめざして参ります。

昨今、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が極めて少ない鉄道は「環境にやさしい」という微風ではありますが、追い風の評価を得ており、今こそ鉄道の復権に向けたさらなるアイデアの創出に頑張らなければと新しい年を迎えるにあたって気を引き締めております。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げまして新年のご挨拶とさせていただきます。